

0 世界史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はⅠ～Ⅲとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

 (3と解答する場合)

I. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

ナザレのイエスは、ユダヤ教の律法主義や祭司の墮落を批判したため、律法を重んじる（イ）派や祭司らによって反逆者として告発され、これを受けたローマの総督（ロ）によって十字架刑に処せられた。ローマ帝国のキリスト教徒たちはたびたび迫害を受けつても、（ハ）と呼ばれる地下墓所で礼拝を行い、その信仰を保持し続けた。その後、313年には、ローマ皇帝が（ニ）勅令を発してキリスト教を公認した。

公認直後からキリスト教は教義対立や異端排除の歴史を歩み始める。4世紀にはアリウス派が、つづく5世紀にはネストリウス派が異端とされた。8世紀には、ビザンツ皇帝くあ¹⁾が発布した聖像禁止令をローマ教会が非難し、東西教会が対立を深めた。この禁止令はビザンツ帝国内部でも対立を引き起こし、その後廃止された。

西ヨーロッパ²⁾では、ローマ＝カトリック教会の巨大化にともない聖職者の腐敗・墮落も目立つようになった。それをただそうと、11世紀後半に教皇くい³⁾が聖職売買や聖職者の妻帯を禁ずるなどの改革を行ったが、そうした動きの一方で、教会権力から離反しようとする新たな異端派も生まれていった。なかでも（ホ）派は、12世紀に西欧各地に急速に広まり、13世紀には南フランスで地域諸侯に支持されて大勢力となっていた。ローマ教皇はこの異端の征伐をフランス王らに呼びかけ、1209年には十字軍が派遣された。大々的な虐殺も行われたこの戦いは2代後のフランス王の時代まで続いた。13世紀後半に『神学大全』を著した（へ）⁴⁾は、その中で異端者を「死によって世界から排除されるにあたいする」と厳しく断じている。

近世になると異端の問題は、世俗権力を広範に巻き込んで複雑な様相を呈していく。神聖ローマ帝国では、宗教対立は露骨に政治的経済的利害と関わりをもった。皇帝位を狙ってフランス王（ト）と争っていたスペイン王カルロス1世は、贖宥状販売に深く関与して利益をあげていたフッガー家に経済的支援を求めた。ルターがこうした贖宥状の販売を批判したことにより、宗教改革が始まった。ルターの教会権威を否定する説⁴⁾は、世俗権力による教会財産の没収も含意したため、諸侯の支持を得やすかった。諸都市も宗教改革に乗じて、教会に代わる課税権の獲得を目論んだ。カール5世として帝位についたカルロス1世は、1521年の（チ）の帝国議会でルターに説の撤回を求めたが拒否された。1529年に皇帝がルター派に対する徹底弾圧を提案すると、これに反対する諸侯や都市が（リ）同盟を結成して皇帝と争った。その後も新旧両教徒の争いが続いた。

スペインでは、キリスト教の異端のほかにイスラームやユダヤなどの異教徒も迫害の対象とされた。有罪者からの財産没収は異端審問所の重要な資金源となったため、裕福なユ

Ⅱ. 次の文を読み、文中の下線部1)～9)にそれぞれ対応する下記の設問1～9に答えよ。

解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

近年、国内で火山に関するニュースが多く報道されている。2013年、小笠原諸島に出現した新島は、やがて流れ出る溶岩によって近くの西之島と一体化した。2014年には長野県・岐阜県にまたがる御嶽山が、また2015年には鹿児島県の口永良部島が噴火している。

歴史的にも、火山の噴火は人々の生活に大きな影響を及ぼしてきた。たとえば紀元前17世紀頃にはクレタ文明が栄えていたエーゲ海でサントリーニ島が噴火し、その影響でペロポネソス半島¹⁾や周辺の島々が大きな被害を受けたと考えられている。また79年にはイタリア半島のヴェズヴィオ山が噴火し、近隣のポンペイが灰に埋まった。この噴火に際しては、艦隊司令官として救援に向かったプリニウスが火山ガスで命を落としている。

近代に入っても、火山噴火は各地で大きな災いを引き起こし続けた。アイスランド島³⁾では1783年に東部火山帯で大規模な噴火が発生し、島の人々の生活に壊滅的な被害が生じた。東南アジアでも、1815年にはインドネシア⁵⁾中南部のタンボラ山が、また1883年には同じくインドネシアのスダ海峽⁵⁾に位置するクラカタウ山が大噴火を起こしている。これらのうち特にクラカタウ山噴火のニュースは、この頃までに敷設が進んでいた海底電信ケーブル⁶⁾を通して、従来にない速度で世界へと伝えられた。

20世紀初頭に大きな火山災害をもたらしたのは西インド諸島のマルティニーク島にあるペレ山である。1902年の噴火に伴う火砕流は近隣の都市サン＝ピエールを呑みこみ、多数の死者を出した。この頃、アメリカ合衆国では大西洋－太平洋間の往来を可能にする運河としてニカラグア・ルートとパナマ・ルートが検討されていたが、ニカラグアには火山が多いことがパナマ派のロビー活動で取り上げられ、最終的にパナマ運河⁷⁾が建設されることになった。1985年に起きたコロンビア⁸⁾のルイス山の噴火や、1991年に起きたフィリピン⁹⁾のピナトゥポ山の噴火も多くの悲劇を生み、人々の暮らしに深刻な打撃を与えた。

火山災害に対しては多くの学者が噴火予知に努めているが、そのタイミングや規模を正確に特定するのは困難である。アメリカのイエローストーン国立公園や日本の始良カルデラを始め、世界には目を離すことのできない無数の火山が存在していることを、我々は日頃から忘れるべきでないだろう。

Ⅲ. 次の文を読み、下記の設問 A・B に答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1905年、日露戦争のもとで生活に困窮したロシアのサンクト＝ペテルブルク市民は、聖職者（イ）に先導され、皇帝に救済と戦争中止を求め¹⁾るデモを行った。ところがこれに対し宮殿の警備隊が発砲し、多数の死傷者を出す結果となった。「血の日曜日事件」と呼ばれるこの出来事をきっかけに、ロシア各地で反政府運動が激化した。皇帝ニコライ2世は国会開設などを公約し、またポーツマス講和会議で全権代表をつとめた（ロ）を首相に起用するなどして事態の収束を図った。

第一次世界大戦が始まると、ロシアは協商国（連合国）側でこれに参戦したが、1914年8月には（ハ）の戦いでドイツ軍に破れ、同軍のロシア領内への進撃を許した。国内では食糧不足が深刻になり、ついに1917年2月（露暦）、ペトログラードで起きたデモ・ストライキをきっかけとしてロシア革命が起こった。まず二月革命でロマノフ王朝が倒され²⁾臨時政府が樹立されたが、続く十月革命ではその臨時政府が倒され、ソヴィエト政権が成立した。³⁾1922年には、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ・ザカフカースの4つのソヴィエト共和国によってソヴィエト社会主義共和国連邦（ソ連）⁴⁾が結成された。ソヴィエト政権の中心人物レーニンが没すると後継者争いが生じたが、最終的に実権を握ったのはスターリンであった。⁵⁾スターリンは反対派と見なした人々を多数投獄・処刑して独裁を進めた。

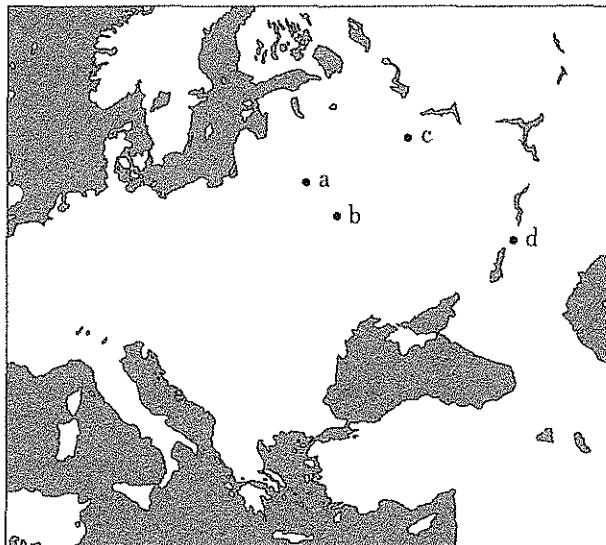
1939年、ドイツのポーランド侵攻によって第二次世界大戦が始まった。ソ連はドイツとの間に不可侵条約を結んでいたが、1941年にドイツはこれを無視してソ連を奇襲する。ドイツ軍はいったんモスクワに迫るが、ソ連軍は1943年にスターリングラードの戦いで勝利⁶⁾を取めたのを機に攻勢へと転じた。1945年にはドイツと日本が順次降伏し第二次世界大戦は終結した。戦後、東欧諸国ではソ連の後押しを受けて共産党主導の改革が進み、次々と社会主義を採用するようになった。1955年、ソ連はこれらの国々とワルシャワ条約機構⁷⁾を発足させた。

スターリンの没後、フルシチョフ第一書記は1956年にスターリン批判を行い、また資本主義国との平和共存を唱えた。⁸⁾だが東西間の緊張が完全に解けたわけではなく、たとえば1957年にソ連が世界初の人工衛星（ニ）1号の打ち上げに成功したニュースはアメリカに強い衝撃を与えた。その後も米ソ間の緊張は繰り返し高まったが、1991年、ついにソ連は解体・消滅した。

A. 文中の空所(イ)～(ニ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～8)にそれぞれ対応する次の問1～8に答えよ。

- この都市では1825年にも、皇帝ニコライ1世の即位にあわせて青年貴族士官らが改革を求め蜂起している。この事件を何と呼ぶか。その名をしるせ。
- この戦争の期間を通じて中立を保った国はどれか。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
a. イタリア b. オランダ c. ギリシア d. ポルトガル
- この政府において1917年7月から首相を務めた人物は誰か。その名をしるせ。
- この国はその後、1936年に民族別の3つの共和国に分裂した。その3カ国のうち、アルメニア、グルジアを除く残りの1カ国はどこか。その名をしるせ。
- ソヴィエト政権の成立からこの人物が没するまでの期間にロシアをめぐって起きた次の出来事a～dのうち、もっとも古いものを解答欄のiに、次に古いものをiiに、以下同じようにivまで年代順にマークせよ。
a. コミンテルンの創設
b. ネップ（新経済政策、NEP）の開始
c. プレスト＝リトフスク条約の締結
d. ラバロ条約の締結
- この都市の位置はどこか。次の地図中のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。



7. この機構に加盟していない国はどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

a. チェコスロヴァキア

b. ハンガリー

c. ブルガリア

d. ユーゴスラヴィア

8. この人物の第一書記在任中の出来事でないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

a. ジュネーブ 4 巨頭会談の開催

b. 第 1 次戦略兵器制限交渉 (SALT I) 調印

c. 西ドイツとソ連との国交回復

d. ハンガリーの民主化運動に対するソ連の軍事介入

【以下余白】

